

投資家の皆様へ

平成23年3月期 中間決算及び事業報告

証券コード 9852

中央物産株式会社



— 目 次 —

1. 平成23年3月期 中間決算 主要な経営指標等の推移
2. 平成23年3月期 中間決算財務諸表
 - ① 四半期連結貸借対照表
 - ② 四半期連結損益計算書
 - ③ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書
3. 平成23年3月期 中間決算事業報告
4. 平成23年3月期 連結業績予想の修正について
5. 利益配分に関する基本方針と当期の配当について
6. 当社事業の内容
 - ① 主要な事業内容及び事業所
 - ② 当社グループ組織図
 - ③ 当社事業及び関係会社のご紹介
7. 参考
 - ① 役員の状況
 - ② 株式の状況

1. 平成23年3月期 中間決算 主要な経営指標等の推移

連結経営指標等

回次	第62期 第2四半期 連結累計期間	第63期 第2四半期 連結累計期間	第62期 第2四半期 連結会計期間	第63期 第2四半期 連結会計期間	第62期 連結累計期間	第63期 (連結業績予想)
会計期間	自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	69,115	67,005	33,882	33,252	131,938	132,000
経常利益 (百万円)	685	789	95	307	973	1,000
四半期(当期)純利益 (百万円)	514	260	24	136	355	480
純資産額 (百万円)	—	—	13,439	13,322	13,254	
総資産額 (百万円)	—	—	42,284	41,688	40,446	
1株当たり純資産額 (円)	—	—	1,222.38	1,212.00	1,205.76	
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	46.19	23.67	2.20	12.41	32.13	43.36
自己資本比率 (%)	—	—	31.8	32.0	32.8	
営業活動によるキャッシュ フロー (百万円)	854	△752	—	—	△1,959	
投資活動によるキャッシュ フロー (百万円)	△426	△86	—	—	△383	
財務活動によるキャッシュ フロー (百万円)	△701	1,013	—	—	△1,726	
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	—	—	773	1,072	897	
従業員数 (名)	—	—	710	692	706	

2. 平成23年3月期 中間決算財務諸表

① 四半期連結貸借対照表（平成22年9月30日現在）

（単位：百万円）

	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
(資産の部)					
I 流動資産	26,889	66.5%	28,208	67.7%	+1,319
II 固定資産	13,556	33.5%	13,480	32.3%	-76
III 繰延資産	1	0.0%	—	0.0%	-1
資産合計	40,446	100.0%	41,688	100.0%	+1,242
(負債の部)					
I 流動負債	25,255	62.4%	26,173	62.8%	+918
II 固定負債	1,936	4.8%	2,191	52.6%	+255
負債合計	27,191	67.2%	28,365	68.0%	+1,174
(純資産の部)					
I 株主資本	13,090	32.4%	13,262	31.8%	+172
II 評価・換算差額等	164	0.4%	60	0.1%	-104
純資産合計	13,254	32.7%	13,322	32.0%	+68
負債純資産合計	40,446	100.0%	41,688	100.0%	+1,242

② 四半期連結損益計算書（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）		当第2四半期連結累計期間 （自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）		増減額
	金額	売上比	金額	売上比	
I 売上高	69,115	100.0%	67,005	100.0%	-2,110
II 売上原価	59,594	86.2%	57,325	85.6%	-2,269
売上総利益	9,521	13.8%	9,679	14.4%	+158
III 販売費及び一般管理費	9,251	13.4%	9,133	13.6%	-118
営業利益	270	0.4%	546	0.8%	+276
IV 営業外収益	581	0.8%	357	0.5%	-224
V 営業外費用	166	0.2%	114	0.2%	-52
経常利益	685	1.0%	789	1.2%	+104
VI 特別利益	31	0.0%	2	0.0%	-29
VII 特別損失	70	0.1%	178	0.3%	+108
税金等調整前当期純利益	646	0.9%	613	0.9%	-33
法人税等	131	0.2%	353	0.5%	+222
当期純利益	514	0.7%	260	0.3%	-254

③ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書
(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	854	△752
投資活動によるキャッシュ・フロー	△426	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	△701	1,013
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△273	175
現金及び現金同等物の期首残高	1,046	897
現金及び現金同等物の四半期末残高	773	1,072

3.平成23年3月期 中間決算事業報告

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円高等の影響により輸出産業の不振、株価の低迷、消費市場のデフレ化等、景気は依然として足踏み状態が続いております。

また、当社グループが属する流通業界におきましても、依然として厳しい競争環境下におかれております。

このような状況のもと、当期も引き続き以下の5つの施策を柱として、高収益体質への改善を図ってまいりました。

①キャッシュ・フロー経営の徹底

「キャッシュ・フロー経営」を徹底することにより財務体質の強化を図り、企業価値を高めるとともに株主価値を最大化させてまいりました。

②生産性の向上やコスト改善による収益構造の改革

全業務プロセスを見直し、生産性の向上やコスト改善により、収益性の高い企業体質への改善を進めてまいりました。

③専売品を軸としたマーチャンダイジング機能の強化

高粗利益商品である専売品を軸としたマーチャンダイジング機能を強化してまいりました。

3.平成23年3月期 中間決算事業報告

④人材育成の強化

当社の人材育成プログラムである『CBCアカデミー』を継続し、論理思考やプレゼンテーションスキル、マーケティング知識、財務知識、マネージメント能力開発など、一般社員の知識能力のレベルアップと経営幹部候補の育成を行ってまいりました。

⑤地域卸事業（地域卸様との共同による地域密着小売店様への商品供給の充実と効率化）の強化

効率的・効果的なサプライチェーンの全体最適の仕組みを研究し、地域卸売業者との取り組み強化を推進してまいりました。

子会社7社を含めた当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は670億5百万円（前年同期比15.2%増）となりました。当第1四半期に引き続き専売品や付加価値の高い商品を軸にしたことにより売上総利益は96億7千9百万円（前年同期比1.7%増）売上総利益率は、前年同期比で0.7%向上し14.4%となりました。生産性の向上やコスト改善により、販売費及び一般管理費は91億3千3百万円（前年同期比1.3%減）となりました。

以上の結果、営業利益は5億4千6百万円（前年同期比102.6%増）、経常利益は7億8千9百万円（前年同期比15.2%増）、当期より資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額1億6千1百万円を計上したことにより、四半期純利益は2億6千万円（前年同期比49.5%減）となりました。

4.平成23年3月期 連結業績予想の修正について

当第2四半期連結累計期間の業績は、利益率の高い商材の売上と物流受託収入が増加したことにより利益増となりました。また、経費の削減等により、営業利益、経常利益、純利益が当初の予想を上回る見通しとなりました。これに伴い、平成22年11月2日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしました。

平成23年3月期 第2四半期(累計)連結業績予想数値 ー平成22年4月1日～平成22年9月30日ー

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,000	240	500	140	12.65
今回発表予想(B)	67,005	546	789	260	23.67
増減額(B-A)	1,005	306	289	120	
増減率(%)	1.5	127.9	58.0	85.8	
〈参考〉					
前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	69,115	270	685	514	46.19
当期通期実績 (平成23年3月期)	132,000	480	1,000	480	43.36

注. 通期の業績予想につきましては、国内の景気動向が依然として不透明であるため、現時点での変更は行いません。今後の業績推移に応じて、修正の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。

5. 利益配分に関する基本方針と当期の配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要施策として位置付け、常に経営基盤の強化および将来の事業展開に備えるための内部留保につとめ、業績に応じた利益還元を安定的かつ継続的に行うことを基本方針としております。

現時点におきまして、平成23年3月期の期末配当は当社普通株式1株につき8円を予定させていただいております。

6. 当社の事業内容

① 主要な事業内容及び事業所

当社企業集団は、子会社を含む8社で構成されており、主に化粧品・日用雑貨などお客様に価値ある商品とサービスを提供し、ヘルス&ビューティーの分野において消費者に快適な生活を営んでいただくための、お手伝いをすることを使命に事業活動を展開しております。

当社は、化粧品・日用雑貨・医療衛生用品などの生活関連用品を、主に国内のメーカーから仕入れて、首都圏を中心に関西及び東海地区の量販店・百貨店ドラッグストア・ホームセンター・専門店・有力卸店などへの卸売を業務としている日用雑貨事業です。

株式会社シービックは、国内及び海外から商品を輸入・加工して、主に卸売業者に販売するメーカー事業を展開しています。また、株式会社エナスは、中央物産の専売品としてニッチ分野の商品を輸入、開発し、中央物産のマーチャンダイジングにおける高付加価値化に貢献することを目指しております。

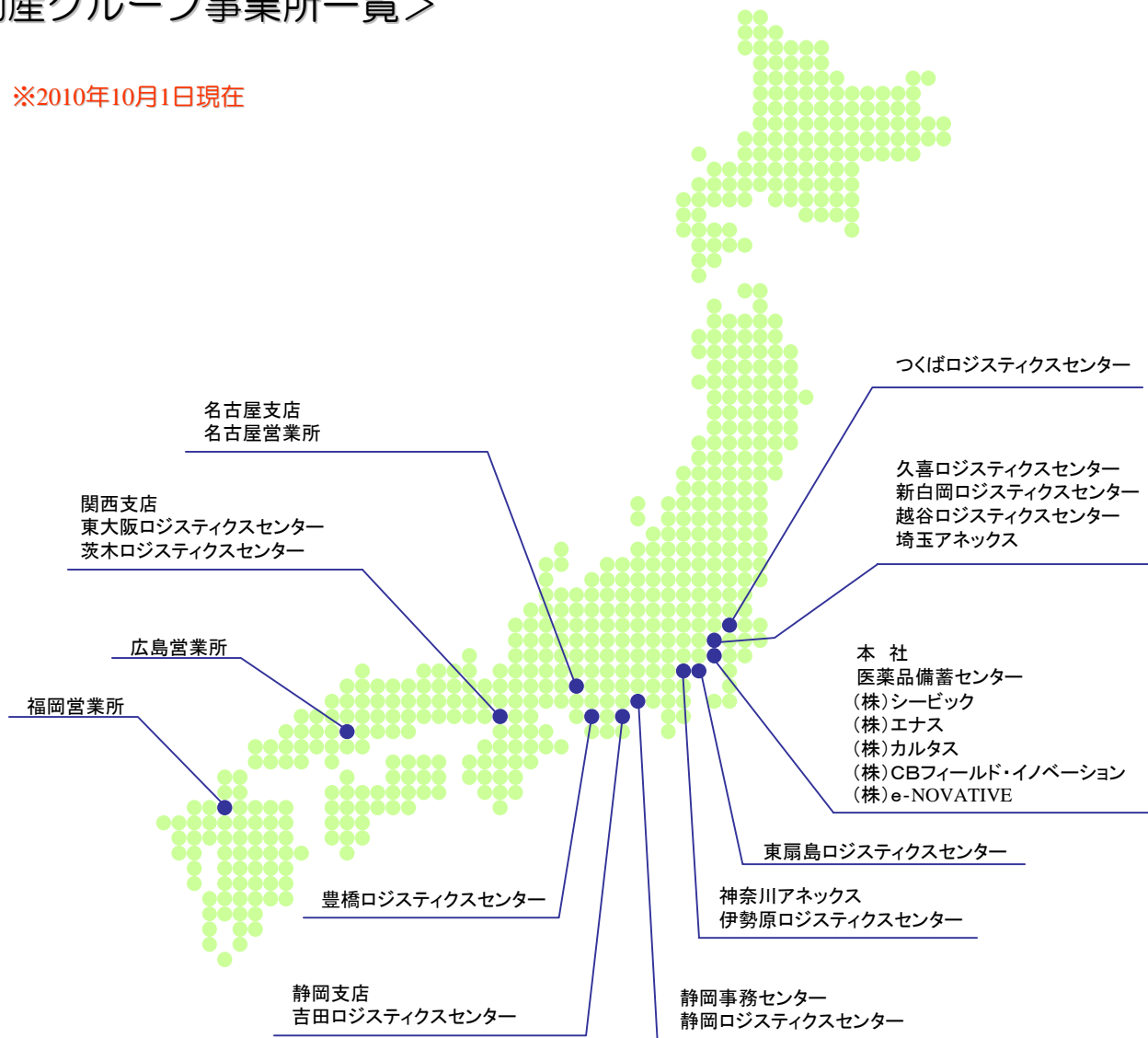
株式会社CBフィールド・イノベーションは、小売店の店頭を活性化させるフィールドマーチャンダイジング請負事業を展開しております。

紙製品カテゴリーの強化を目的として子会社化した、アルボ株式会社、株式会社システムトラスト及び株式会社五色屋は、首都圏を中心に紙製品を主とした日用雑貨品を仕入れ、販売する卸売を事業としております。なお、この3社は当年4月をもって合併し、株式会社カルタスとなりました。

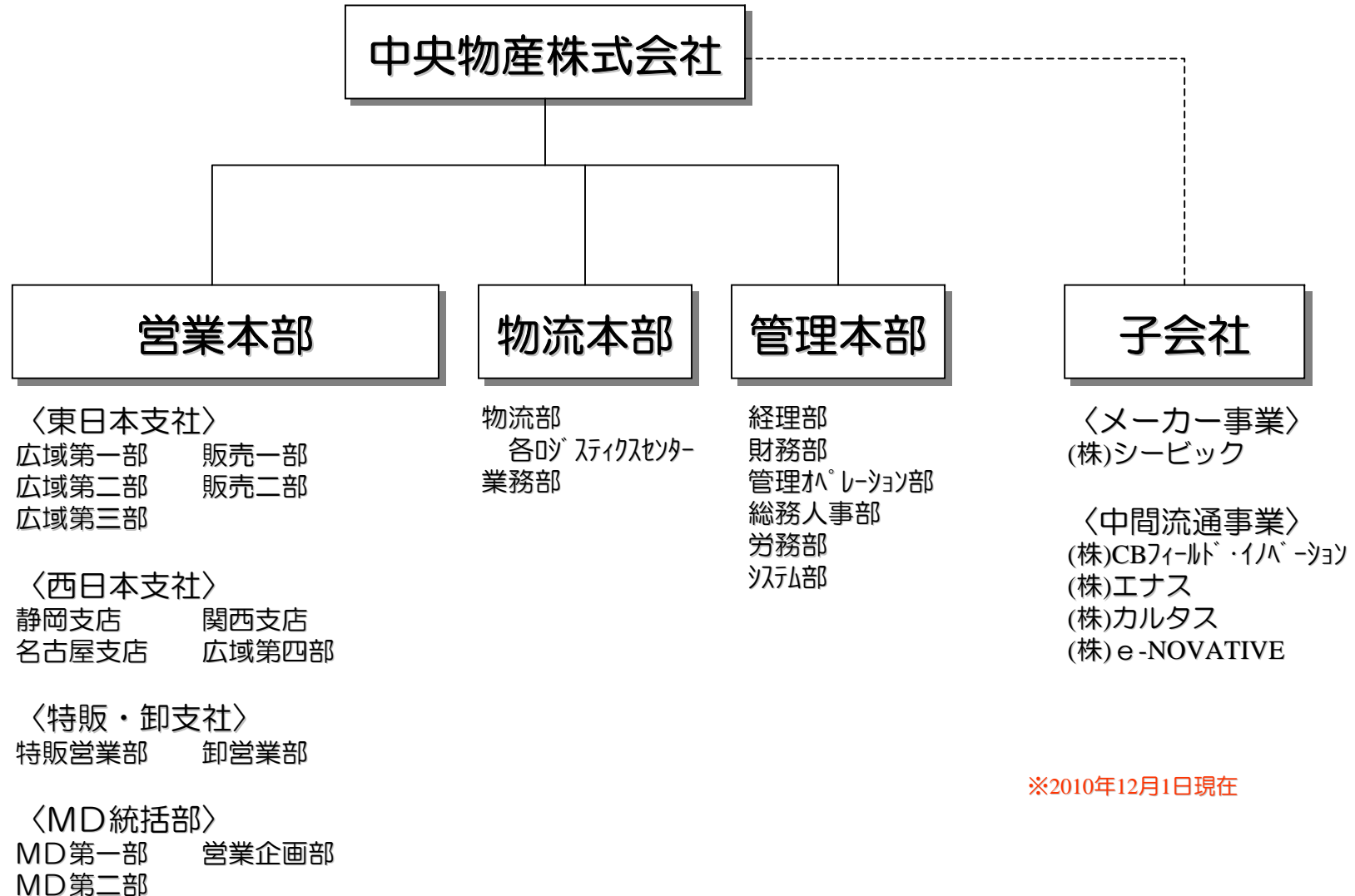
当年8月12日に設立した株式会社e-NOVATIVE（呼称：イノヴェイティブ）は、当社及び当社グループ企業が取扱う日用消費財を対象に、インターネットによる通信販売を事業としております。

<中央物産グループ事業所一覧>

※2010年10月1日現在



② 当社グループ組織図



※2010年12月1日現在

③ 当社事業及び関係会社のご紹介

青山・マーチャンダイジングスタジアム

本年3月にリニューアルいたしました、青山・マーチャンダイジングスタジアムは、弊社が掲げる“新中間流通業「カテゴリー・コントラクター」”提唱の一環として、得意先小売店様に貢献できるマーチャンダイジング機能を体験していただく場所です。『鮮度・意外性・期待感』をコンセプトに、実際に商品を手にとってもらい、『新しい切り口』『旬』を体感してもらうと同時に、「C-CAP」システムをもとにしたマーチャンダイジング提案と得意先小売店様との取り組みの場として有効的に活用されております。

CBC
AOYAMA
MERCHANDISING
STADIUM



インポート提案、カテゴリー提案等のほか、様々な切り口から中央物産独自のマーチャンダイジングを提案いたします。

久喜ロジスティクスセンター

平成21年7月に開設した久喜ロジスティクスセンターは、『人の知恵で動かすロジスティクス』をコンセプトに、機械では成し得ない「人の力/能力・判断力・フレキシビリティ・あたたかさ」を最大限に活用して、時代の要請に応えながら先を見据えた次世代ロジスティクスに挑戦しています。

[人の知恵で動かす] 久喜ロジスティクスセンター 3つの特徴

POINT 1 人知 [Human Power]

「ピック・ツー・パレット」方式へ。
人知を結集し、お客様ニーズに柔軟に対応するため
コンベアシステム(機械化)からの脱却を図ります。

POINT 2 環境 [Environment]

高い環境意識を実現すること。それは物流コスト削減への
課題をクリアすることにつながります。

POINT 3 品質 [※6σ(シックスシグマ) Quality]

限りなくシックスシグマ品質を目指す。
入荷から納品まですべてのプロセスでミス根絶へ。

久喜ロジスティクスセンター [概要]

所在地	埼玉県南埼玉郡菖蒲町大字三筒 ^{さんが} 3530 TEL : 0480-87-1311 FAX : 0480-87-1314
敷地面積	22,599m ² (6,836 坪)
建物構造	地上3階建、鉄筋コンクリート造
延床面積	28,632m ² (8,676 坪、庇部 602 坪含)
保管能力	在庫物量 300 千ケース 在庫金額 13 億円
出荷能力	237 億円/年
建物竣工	2009 年 6 月 29 日
出荷開始	2009 年 7 月 7 日



CBC 株式会社 シービック

(事業内容)

国際的なパーソナルケア製品の製造、輸入、商品企画および販売を営んでおります。全国優良卸店（化粧雑貨、医療器具薬品、靴付属品等）約350社を通じ、量販店、薬局・薬店、バラエティストア、コンビニエンスストア、ホームセンター等を販路としております。

(沿革)

中央物産株式会社のメーカー部門の中央ホームプロダクツ事業部と子会社（合弁会社）メイベリン株式会社を合併し、平成3年10月16日に中央物産株式会社100%出資のメーカー部門の子会社として設立し平成4年1月1日より営業を開始いたしました。

(本社所在地)

〒107-8545 東京都港区南青山2-5-17
TEL 03 (5414) 0777 FAX 03 (5414) 2861

(主要な販売ブランド)



“豊かな紙生活を応援する”

(事業内容)

家庭紙及び紙製品を中心とする日用雑貨品の卸売事業です。

(沿革)

アルボ(株)・(株)システムトラスト・(株)五色屋の3社が、本年4月をもって合併し、(株)カルタスになりました。

(本社所在地)

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12
日本橋第二ビル2F
TEL 03 (3662) 3548 FAX 03 (3662) 3553



7. 参考

① 役員の状況

役職名	担当	氏名
取締役会長		丸山 源一
代表取締役社長		児島 誠一郎
専務取締役	営業本部長	尾田 寛仁
専務取締役	管理本部長	原 幸男
取締役	営業本部副本部長	益子 政一
取締役	営業本部 広域第一部管掌	小川 實
取締役	営業本部副本部長	松島 淑雄
取締役	管理本部副本部長	提坂 直弘
取締役	物流本部長	加藤 雅之
常勤監査役		永井 幸雄
常勤監査役		宮腰 守也
監査役		臼井 義眞
監査役		梶山 智

② 株式の状況（平成22年9月30日現在）

- ◆発行可能株式総数 49,000,000株
- ◆発行済株式総数 12,309,244株
- ◆株主数 887名

株主名	持株数	持株比率
セントラル商事(株)	1,560千株	12.68 %
中央物産共栄会	1,044千株	8.48 %
丸山 源一	613千株	4.98 %
中央物産従業員持株会	548千株	4.46 %
丸山 啓	463千株	3.77 %
SMB Cフレンド証券	448千株	3.64 %
児島 なおみ	355千株	2.89 %
(株)東京タキタ	328千株	2.67 %
丸山 晋一郎	317千株	2.58 %
(株)三井住友銀行	303千株	2.47 %

注. 上記には、当社が保有する自己株式 1,317,105株 は含まれておりません。

END